

ヨハネ7:20における *daemonium habere* の 古英語訳について

石 原 覚

I

以下は、神殿の中でイエスがユダヤ人たちを、彼らが律法を守らないと非難したうえで、「なぜあなたたちは私を殺そうとするのか」と問うた際、彼らがイエスへ返した発言を記した、ウルガータ (Vulgata) のヨハネ福音書一節である。ここには *daemonium habere* (悪霊を持つ) という表現が見出される。

- (1) *respondit turba et dixit daemonium habes quis te quaerit interficere* (Io 7:20)¹⁾
(すると群衆は答えて言った、「あなたは悪霊を持っている。誰があなたを殺そうとするのか」。)

下の (2) は (1) に対応する古英語訳福音書の箇所である。(1) の *daemonium habere* を表現するのに *deofol* (悪霊) を主語として *stician on* (…に取り憑く) が用いられていることに気付く。

- (2) ... *deofol þe sticað on. hwa secð þe to ofsleanne*; (Jn (WSCp) 7.20)²⁾
(……「悪霊があなたに取り憑いている。誰があなたを殺そうとするのか」。)

J. W. Bright は (2) について「訳は動詞の選択の自由さを示している」(‘The Version exhibits freedom in the selection of the verb’) と指摘する。³⁾ ちなみに福音書行間注解の対応箇所では、以下の (3)(4) のようにそれぞれ *deofol* と *habban* による直訳が見られる。

- (3) ... *diul ðu hafis hwa ðec soecað to acuoellanne* † (JnGl (Li) 7.20)
(4) ... *diowul ðu hæfes hwa ðec soeceað to acwellanne* (JnGl (Ru) 7.20)

本稿では、(2) の *deofol* を主語とする *stician on* ... という表現が、なぜ *daemonium habere* を訳すのに用いられているのかについて考える。

II

(1) に見られる *daemonium(-a) habere* (悪霊 (たち) を持つ) という表現はウルガータの新約の中で (1) 以外に 16 回 (5)~(20) に現れる。⁴⁾

(5) *et obtulerunt ei omnes male habentes variis languoribus et tormentis comprehensos et qui daemonia habebant et lunaticos et paralyticos et curavit eos* (Mt 4:24)

(人々は彼のもとに、すべての具合の悪い者たち、さまざまな病気や苦しみに捉えられた者たち、悪霊を持っていた者たち、癲癩の者たちや中風の者たちを連れて来たので、彼は彼らを癒した。)

(6) *vespere autem facto obtulerunt ei multos daemonia habentes et eiciebat spiritus verbo et omnes male habentes curavit* (Mt 8:16)

(夕方になると、人々は彼のもとに悪霊を持っていた多くの者たちを連れて来た。すると彼は霊たちを言葉で追い出し、具合の悪いすべての者を癒した。)

(7) *occurrerunt ei duo habentes daemonia de monumentis exeuntes* (Mt 8:28)

(悪霊を持っていた 2 人の男が、墓場から出て彼の方へ走って来た。)

(8) *pastores autem fugerunt et venientes in civitatem nuntiaverunt omnia et de his qui daemonia habuerant* (Mt 8:33)

(〔豚を〕飼っていた者たちの方は、逃げて町に行き、すべてのことと、悪霊を持っていた者たちについて知らせた。)

(9) *egressis autem illis ecce obtulerunt ei hominem mutum daemonium habentem* (Mt 9:32)

(彼らが外へ出ると、見よ、人々が彼のもとに、悪霊を持っていた口の利けない男^きを連れて来た。)

(10) *venit enim Iohannes neque manducans neque bibens et dicunt daemonium habet* (Mt 11:18)

(ヨハネが来て、食べも飲みもしないと、彼ら [この世代] は「彼は悪霊を持っている」と言うからである。)

(11) *Tunc oblatus est ei daemonium habens caecus et mutus et curavit eum ita ut loqueretur et videret* (Mt 12:22)

(その後彼のもとに、悪霊を持っていた盲目で口の利けない男が連れて来られ、彼は彼を癒したので、彼は話したり、見たりできるように

- なった。)
- (12) *vespere autem facto cum occidisset sol adferebant ad eum omnes male habentes et daemonia habentes* (Mc 1:32)
(夕方になり日が沈むと、人々は彼のもとに、すべての具合の悪い者たちと悪霊を持っていた者たちを連れて来た。)
- (13) *et narraverunt illis qui viderant qualiter factum esset ei qui daemonium habuerat et de porcis* (Mc 5:16)
(悪霊を持っていた者が、また豚について、どうなったかを見ていた者たちは、人々に語った。)
- (14) *venit enim Iohannes Baptista neque manducans panem neque bibens vinum et dicitis daemonium habet* (Lc 7:33)
(洗礼者ヨハネが来て、パンも食わず葡萄酒も飲まないと、あなたたちは「彼は悪霊を持っている」と言うからである。)
- (15) *et cum egressus esset ad terram occurrit illi vir quidam qui habebat daemonium iam temporibus multis et vestimento non induebatur neque in domo manebat sed in monumentis* (Lc 8:27)
(彼が上陸すると、すでに長い間悪霊を持っていたある男が、彼の方へ走って来た。彼は着物を纏わず、家ではなく墓場に住んでいた。)
- (16) *responderunt igitur Iudaei et dixerunt ei nonne bene dicimus nos quia Samaritanus es tu et daemonium habes* (Io 8:48)
(それでユダヤ人たちが答えて彼に言った、「我々が、あなたはサマリア人で、悪霊を持っていると言うのはもっともではないか」。)
- (17) *respondit Iesus ego daemonium non habeo sed honorifico Patrem meum . . .*
(Io 8:49)
(イエスは答えた、「私は悪霊を持っておらず、我が父を敬っている。……」。)
- (18) *dixerunt ergo Iudaei nunc cognovimus quia daemonium habes . . .* (Io 8:52)
(そこでユダヤ人たちは言った、「今我々には、あなたが悪霊を持っているとわかった。……」。)
- (19) *dicebant autem multi ex ipsis daemonium habet et insanit quid eum auditis* (Io 10:20)
(彼ら [ユダヤ人たち] の中の多くの人々は言った、「彼は悪霊を持っていて、気が狂っている。なぜあなたたちは彼の言うことを聞くの

か)。

- (20) alii dicebant haec verba non sunt *daemonium habentis* numquid *daemonium potest caecorum oculos aperire* (Io 10:21)

(他の人々は言った、「これらの言葉は悪霊を持っている人のものではない。悪霊に盲人たちの目を開けるのか」)。

ウルガータの新約における *daemonium(-a) habere* に類似した表現としては、*daemonium inmundum habere* (汚れた悪霊を持つ) が1回(21)に

- (21) Et in synagoga erat homo *habens daemonium inmundum* et exclamavit voce magna (Lc 4:33)

(教会堂には汚れた悪霊を持っていた人がいて、大声で叫んだ。)

spiritum(-us) inmundum(-os) habere (汚れた霊(たち)を持つ) が3回(22)~(24)に

- (22) quoniam dicebant *spiritum inmundum habet* (Mc 3:30)

(彼ら[律法学者たち]が「彼は汚れた霊を持っている」と言っていたからである。)

- (23) mulier enim statim ut audivit de eo cuius *habebat filia spiritum inmundum* intravit et procidit ad pedes eius (Mc 7:25)

(その娘が汚れた霊を持っていた女が、じきに彼のことを耳にし、入って来て彼の足元に平伏したからである。)

- (24) multi enim eorum qui *habebant spiritus inmundos* clamantes voce magna exiebant multi autem paralytici et claudi curati sunt (Act 8:7)

(汚れた霊を持っていた者の多く [から汚れた霊] が大声で叫びながら出て行き、また多くの中風の者や ^{あしなえ}跛の者が癒されたからである。)

spiritus malos habere (邪悪な霊たちを持つ)、*spiritum mutum habere* (口を利けなくする霊を持つ)、*spiritum infirmitatis habere* (病弱の霊を持つ)、*Beelzebub habere* (ベエルゼブブ [悪霊たちの君主] を持つ) がそれぞれ1回ずつ(25)~(28)に現れる。

- (25) temptaverunt autem quidam et de circumeuntibus iudaeis exorcistis invocare super eos qui *habebant spiritus malos* nomen Domini Iesu dicentes (Act 19:13)

(遍歴するユダヤ人の悪霊払い師たちの中にも、邪悪な霊を持っていた者たちに、主イエスの名を称えようと試みた者らがいて、言った、……)

- (26) Et respondens unus de turba dixit magister adtuli filium meum ad te *habentem spiritum mutum* (Mc 9:16)
(すると群衆の一人が答えて言った、「先生、私は口を利けなくする霊を持った息子をあなたのもとに連れて来ました。……」。)
- (27) et ecce mulier quae *habebat spiritum infirmitatis* annis decem et octo et erat inclinata nec omnino poterat sursum respicere (Lc 13:11)
(すると見よ、病弱の霊を18年間持っていた女が [いて]、彼女は体が曲がり、全く上を見ることができなかった。)
- (28) Et scribae qui ab Hierosolymis descenderant dicebant quoniam *Beelzebub habet* et quia in principe daemonum eicit daemonia (Mc 3:22)⁵⁾
(エルサレムから下って来た律法学者たちは「彼はベエルゼブブを持っている」と、また「悪霊たちの君主によって悪霊たちを追い出している」と言った。)

III

ここで (1)(5)~(28) のギリシャ語原文を確認しておく。(1)(10)(14)~(19) の *daemonium habere* は、(15) のそれを除き、(29) に見られる *δαίμόνιον ἔχειν* (悪霊を持つ) の直訳である。(15) のそれは (30) に見られる単数形ではなく複数形を用いた *δαίμόνια ἔχειν* (悪霊たちを持つ) に対応する。

- (29) ... *δαίμόνιον ἔχεις· τίς σε ζητεῖ ἀποκτεῖναι*; (Ev.Jo.7.20)⁶⁾
(……「あなたは悪霊を持っている。誰があなたを殺そうとするのか」。)
- (30) *ἐξελθόντι δὲ αὐτῷ ἐπὶ τὴν γῆν ὑπήντησεν ἀνὴρ τις ἐκ τῆς πόλεως ἔχων δαίμόνια καὶ χρόνῳ ἰκανῶ οὐκ ἐνεδύσατο ἱμάτιον ...* (Ev. Luc.8.27)
(上陸した彼に、その町の、悪霊たちを持ったある男が会った。彼は長い間着物を纏わず、……)

他方 (5)~(9)(11)~(13)(20) の *daemonium(-a) habere* は (31) に見られるような *δαίμονιζεσθαι* (悪霊に取り憑かれている) を訳したものである。

- (31) *καὶ προσήνεγκαν αὐτῷ πάντας τοὺς κακῶς ἔχοντας ποικίλαις νόσοις καὶ βασάνοις συνεχομένους [καὶ] δαίμονιζομένους καὶ σεληνιαζομένους καὶ παραλυτικούς, ...* (Ev.Matt.4.24)
(人々は彼のもとに、すべての具合の悪い者たち、さまざまな病気や

苦しみに捉えられた者たち、悪霊に取り憑かれた者たち、癲癩の者たちや中風の者たちを連れて来たので、……)

δαιμονίζεσθαι が δαιμόνιον ἔχειν と同じ意味であることは、(32)(33) のように δαιμόνιον ἔχειν が後続する節で δαιμονίζεσθαι により言い換えられていることからわかる。⁷⁾

(32) ἔλεγον δὲ πολλοὶ ἐξ αὐτῶν· δαιμόνιον ἔχει καὶ μαίνεται· τί αὐτοῦ ἀκούετε; (Ev.Jo.10.20)

(彼らの中の多くの人々は言った、「彼は悪霊を持っていて、気が狂っている。なぜあなたたちは彼の言うことを聞くのか」。)

(33) ἄλλοι ἔλεγον· ταῦτα τὰ ῥήματα οὐκ ἔστιν δαιμονιζομένου· μὴ δαιμόνιον δύναται τυφλῶν ὀφθαλμοὺς ἀνοίξει; (Ev.Jo.10.21)

(他の人々は言った、「これらの言葉は、悪霊に取り憑かれた人のものではない。悪霊に盲人たちの目が開けるのか」。)

(21) の *daemonium inmundum habere* は (34) の πνεῦμα δαιμονίου ἀκαθάρτου ἔχειν (汚れた悪霊の霊を持つ) を短縮したものである。

(34) Καὶ ἐν τῇ συναγωγῇ ἦν ἄνθρωπος ἔχων πνεῦμα δαιμονίου ἀκαθάρτου καὶ ἀνέκραξεν φωνῇ μεγάλῃ· (Ev.Luc.4.33)

(教会堂には汚れた悪霊の霊を持っていた人がいて、大声で叫んだ。)

(22)(23) の *spiritum inmundum habere* は(35)に見られる πνεῦμα ἀκάθαρτον ἔχειν (汚れた霊を持つ) の直訳である。

(35) ὅτι ἔλεγον· πνεῦμα ἀκάθαρτον ἔχει· (Ev.Marc.3.30)

(彼らが「彼は汚れた霊を持っている」と言っていたからである。)

同様に (24) の *spiritus inmundos habere* は πνεύματα ἀκάθαρτα ἔχειν (汚れた霊たちを持つ) を、(25) の *spiritus malos habere* は τὰ πνεύματα τὰ πονηρὰ ἔχειν (邪悪な霊たちを持つ) を、(26) の *spiritum mutum habere* は πνεῦμα ἄλαλον ἔχειν (口を利けなくする霊を持つ) を、(27) の *spiritum infirmitatis habere* は πνεῦμα ἀσθενείας ἔχειν (病弱の霊を持つ) を、(28) の *Beelzebub habere* は Βεελζεβούλ ἔχειν (ベエルゼブルを持つ) を直訳したものである。

IV

ギリシャ語 ἔχειν は、それぞれ (36)(37) において νόσος καὶ πόνοσ (病気と苦痛)、νοσήματά τινα (何らかの病気) を目的語として支配している

ように、「(ある人に病気や苦痛)がある」の意味で用いられる。

(36) λέγει αὐτῷ ὁ Ἀδάμ· οὐχί, υἱέ μου Σήθ, ἀλλὰ νόσον καὶ πόνον ἔχω.
(*Apoc. Mos.* 6)⁸⁾

(アダムが彼に言う、「いや、そうではない、我が子セツよ、私には病気と苦痛があるのだ」。)

(37) λεπρούς ὄντας καὶ ψωρούς καὶ ἄλλα νοσήματά τινα ἔχοντας εἰς τὰ ἱερά καταφεύγοντας μεταίτειν τροφήν, (*J.Ap.1.305*)⁹⁾

(癩病患者であったり、皮膚病に罹っていたり他の何らかの病気のある者たちは、神殿に逃げ込み、食べ物を乞う。)

またこの動詞は新約でも、それぞれ (38)~(40) において *μάστιγες* (病気)、*θλίψις* (苦難)、*ἀσθένειαι* (病気) を目的語としているように、この同じ意味で見出される。

(38) πολλοὺς γὰρ ἐθεράπευσεν, ὥστε ἐπιπίπτειν αὐτῷ ἵνα αὐτοῦ ἄψωνται ὅσοι εἶχον μάστιγας. καὶ τὰ πνεύματα τὰ ἀκάθαρτα, ὅταν αὐτὸν ἐθεώρουν, προσέπιπτον αὐτῷ καὶ ἔκραζον λέγοντες ὅτι σὺ εἶ ὁ υἱὸς τοῦ θεοῦ. (*Ev.Marc.3.10-11*)

(彼が多くの人々を癒したので、病気を持っていたことごとくが彼に触れようと、彼のもとへ押し寄せたからである。そして汚れた霊たちは彼を見ると彼の前に平伏し、「あなたは神の子だ」と叫んで言った。)

(39) Ταῦτα λελάληκα ὑμῖν ἵνα ἐν ἐμοὶ εἰρήνην ἔχητε. ἐν τῷ κόσμῳ θλίψιν ἔχετε· ἀλλὰ θαρσεῖτε, ἐγὼ νενίκηκα τὸν κόσμον. (*Ev.Jo.16.33*)

(私においてあなたたちに平安があるようにと、これらのことを私はあなたたちに語った。世においてはあなたたちに苦難がある。しかし恐れるな、私は世に勝った。)

(40) τούτου δὲ γενομένου καὶ οἱ λοιποὶ οἱ ἐν τῇ νήσῳ ἔχοντες ἀσθενείας προσήρχοντο καὶ ἐθεραπεύοντο, (*Act.Ap.28.9*)

(このことがあったので、島で病気を持っていた他の者たちもやって来て癒された。)

ラテン語 *habere* も (41)~(49) が示すごとく「(ある人に病気や苦痛)がある」の意味で用いられる。すなわち (41)~(46) においてはそれぞれ *ulcus* (潰瘍)、*febricula* (微熱)、*vitium* (疾患)、*morbus regius* (黄疸)、*magni articularum dolores* (強い関節痛)、*leve vulnus* (軽傷) を

(41) *mali tanta vis est ut urina quoque calcata rabiosi canis noceat, maxime ulcus*

habentibus. (PLIN. nat. 29, 102)¹⁰⁾

(病〔狂犬病〕の悪性は甚だしく、狂犬の尿ですらもし踏まれると害をなす。とりわけ潰瘍のある人には。)

- (42) *id videbatur approbare quod erat in extremo, febriculam tum te habentem scripsisse*. (CIC. Att. 6, 9, 1)¹¹⁾

(手紙の末尾にあった、その時あなたには軽い熱があつて書いた、というのがそれを裏付けているように思えた。)

- (43) *Ac primum supervacua curatio est in iis, qui ab infantibus id vitium habent, quia necessario mansurum est usque mortis diem*; (CELS. 7, 7, 15^B)¹²⁾

(そもそも〔目から膿の出る〕この疾患が幼時からある人には、治療は不要である。それが必ずや死ぬ日まで残ることになるからである。)

- (44) *haec herba adalligata morbum regium habentibus ita ut spectari ab his possit sanare id malum traditur*. (PLIN. nat. 27, 66)¹³⁾

(この植物〔ハマアカザ〕を黄疸のある人に、自分から見えるように結び付けておくと、この病を治すと伝えられる。)

- (45) *Terentia magnos articulorum dolores habet*. (CIC. Att. 1, 5, 8)¹⁴⁾

(テレンティアにはひどい関節痛がある。)

- (46) *quid enim mirabile, si quis a Iove percussus non leve vulnus haber?* (Ov. Pont. 1, 7, 50)¹⁵⁾

(ユーピテルに打たれて擦り傷一つ負わぬとは、実に何と驚くべきことか。)

そしてウルガータで(38)~(40)に対応する(47)~(49)においてはそれぞれ *plagae* (病気)、*pressura* (苦難)、*infirmities* (病気) を *habere* は目的語としている。

- (47) *multos enim sanabat ita ut inruerent in eum ut illum tangerent quotquot habebant plagas et spiritus inmundi cum illum videbant procidebant ei et clamabant dicentes tu es Filius Dei* (Mc 3:10-12)

(彼が多くの人々を癒したので、病気を持っていたことごとくが彼に触れようと、彼のもとへ押し寄せたからである。そして汚れた霊たちは彼を見ると彼の前に平伏し、「あなたは神の子だ」と叫んで言った。)

- (48) *haec locutus sum vobis ut in me pacem habeatis in mundo pressuram habetis* ... (Io 16:33)

(私においてあなたたちに平安があるようにと、これらのことを私は

- あなたたちに語った。世においてはあなたたちに苦難がある。……)
(49) *quo facto et omnes qui in insula habebant infirmitates accedebant et curabantur* (Act 28:9)

(このことがあったので、島で病気を持っていたすべての者たちもやって来て癒された。)

ここで注目に値するのは、(38) の古ラテン語訳 (*Vetus Latina*) である (50) では、ウルガータの (47) とは異なり、*habere* は ‘*plagas et spiritus inmundos*’ (病気や汚れた霊) を目的語としている事実である。

- (50) *multos enim sanabat. ita ut intruerent in eum. ut illum tangerent. et quodquod habebant plagas. et spiritus inmundos. cum uiderent illum procidebant ante eum. et clamabant dicentes. quia tu es filius dei* (VET. LAT. Marc. 3, 10–11 (cod. 10))¹⁶⁾

(彼が多くの人々を癒したので、人々が彼に触れようと、彼のもとへ押し寄せたからである。そして病気や汚れた霊を持っていたことごとくが、彼を見ると彼の前に平伏し、「あなたは神の子だ」と叫んで言った。)

ここから「汚れた霊 (悪霊など) を持つ」と言うときの *habere* は、「(ある人に病気や苦痛) がある」と言うときのそれと同じ意味で用いられていることがわかる。¹⁷⁾

V

では (5)~(28) のラテン語表現がいかなる古英語表現に訳されているか見てみよう。(5)~(20) の *daemonium(-a) habere* は、(51)~(57) で *deofolseocnesse(-a) habban* (悪霊病を持つ) により

- (51) & hi brohton him ealle yfelhæbbende missenlicum adlum. & on tintregum gegripene. & þa ðe deofolseocnyssa hæfdon. & monoðseoce & laman . . . (Mt (WSCp) 4.24)

(人々は彼のもとに、すべての具合の悪い者たち、さまざまな病気や苦しみに捉えられた者たち、悪霊病を持っていた者たち、癲癩の者たちや中風の者たちを連れて来たので、……)

- (52) þa urnon him togenes twegen þe hæfdon deofolseocnesse of byrgenum utgangende. (Mt (WSCp) 8.28)

- (悪霊病を持っていた2人の男が、墓場から出て彼の方へ走って来た。)
- (53) ... & comun on þa ceastre & cyddon ealle þas þing & be þam þe ða *deofulseocnyssa hæfdon*; (Mt (WSCp) 8.33)
(……町に行き、すべてのことと、悪霊病を持っていた者たちについて知らせた。)
- (54) *Soplice iohannes com. ne etende. ne drincende. & hi cwædun he hæfð deofulseocnysse*; (Mt (WSCp) 11.18)
(まことにヨハネが来て、食べも飲みもしないと、彼らは「彼は悪霊病を持っている」と言う。)
- (55) & hi rehton him þa ðe hit gesawon hu hit gedon wæs. be þam ðe *deofulseocnesse hæfde & be þam swynum*. (Mk (WSCp) 5.16)
(悪霊病を持っていた者について、また豚について、どうなったかを見ていた者たちは、人々に語った。)
- (56) *Soplice iohannes com se fulluhtere hlaf ne ætende ne win drincende. & ge cweðað. deofulseocnysse he hæfð*; (Lk (WSCp) 7.33)
(まことに洗礼者ヨハネが来て、パンも食わず葡萄酒も飲まないと、あなたたちは「彼は悪霊病を持っている」と言う。)
- (57) ... him agen arn sum man. se *hæfde deofulseocnesse* lange tide. & næs mid nanon reafe gescrydd. ... (Lk (WSCp) 8.27)
(……長い間悪霊病を持っていたある男が、彼の方へ走って来た。彼は着物を纏わず、……)
- (58)~(60) で *deofulseoc* (悪霊病の) を用いて
- (58) ... hig brohton him manege *deofulseoce*. & he utadræfde þa unclænan gastas mid hys worde & he ealle gehælde þa yfelhæbbendan. (Mt (WSCp) 8.16)
(……人々は彼のもとに多くの悪霊病の者たちを連れて来た。すると彼は汚れた霊たちを彼の言葉で追い出し、具合の悪いすべての者を癒した。)
- (59) Ða hig wæron soðlice ut agane hig brohton him dumbne man se wæs *deofulseoc*. (Mt (WSCp) 9.32)
(まことに彼らが外に出ると、人々が彼のもとに、悪霊病の口の利けない男を連れて来た。)
- (60) Ða wæs him broht an *deofulseoc* man se wæs blind & dumb. & he hyne hælde ... (Mt (WSCp) 12.22)

(すると彼のもとに、盲目で口の利けない悪霊病の男が連れて来られ、彼は彼を癒したので、……)

(61)～(65) で *wod* (気が狂った) を用いて

(61) . . . hi brohton to him ealle þa unhalan. & þa ðe *wode wæron*. (Mk (WSCp) 1.32)

(……人々は彼のもとに、すべての具合の悪い者たちと気が狂った者たちを連れて来た。)

(62) . . . Hwi ne cweþe we wel þæt ðu eart samaritanisc & *eart wod*. (Jn (WSCp) 8.48)

(……「我々が、あなたはサマリア人で、気が狂っていると言うのはもっともではないか。」)

(63) . . . Ne *eom ic wod ac ic arwurþige minne fæder*. . . (Jn (WSCp) 8.49)

(……「私は気が狂っておらず、我が父を敬っている。……」)

(64) . . . nu we witon þæt þu *eart wod*. . . (Jn (WSCp) 8.52)

(……「今我々には、あなたが気が狂っているとわかった。……」)

(65) . . . ne synt na þis *wodes mannes word*. cwyst þu. *mæg wod man blindra manna eagan ontynan*; (Jn (WSCp) 10.21)

(……「これは狂人の言葉ではない。狂人に盲人たちの目を開けると言うのか。」)

(66) で *‘deofol is on’* (…の中に悪霊がいる) という意識により表されている。

(66) *manega hyra cwædon. deofol is on him & he cwæð hwi hlyste ge him*; (Jn (WSCp) 10.20)

(彼らの中の多くの人々は言った、「悪霊が彼の中にいて、彼は言った。なぜあなたたちは彼の言うことを聞くのか。」)

(21) の *daemonium inmundum habere* は (67) で *unclænne deofol habban* (汚れた悪霊を持つ) に

(67) *And on hyra gesamnunge wæs sum man unclænne deofol hæbbende. & he hrymde micelre stefne* (Lk (WSCp) 4.33)

(彼らの教会堂には汚れた悪霊を持っていたある人がいて、彼は大声で叫んだ。)

(22)(23) の *spiritum inmundum habere* は (68)(69) で *unclænne gast habban* (汚れた霊を持つ) に

(68) *forþam þe hi cwædon he hæfð unclænne gast*. (Mk (WSCp) 3.30)

(彼らが「彼は汚れた霊を持っている」と言っていたからである。)

- (69) *Sona þa an wif be him gehyrde. þære dohtor hæfde unclæne gast. . .* (Mk (WSCp) 7.25)

(その娘が汚れた霊を持っていた女が、じきに彼のことを耳にし、……)

(26)~(28) の *spiritum mutuma habere*, *spiritum infirmitatis habere*, *Beelzebub habere* はそれぞれ (70)~(72) の *dumbne gast habban* (口を利けなくする霊を持つ)、*untrunnesse gast habban* (病弱の霊を持つ)、*Beelzebub habban* (ベエルゼブブを持つ) に直訳されている。

- (70) . . . *Lareow. ic brohte minne sunu dumbne gast hæbbende* (Mk (WSCp) 9.17)

(……「先生、私は口を利けなくする霊を持った息子を連れて来ました。……」。)

- (71) *þa wæs þar sum wif seo hæfde untrumnesse gast ehtatyne gear. . .* (Lk (WSCp) 13.11)

(すると病弱の霊を18年間持っていたある女がそこにいて、……)

- (72) . . . *Soplice he hæfð beelzebub & on deofla caldre he deofulseocnessa ut adrifð.* (Mk (WSCp) 3.22)

(……「まことに彼はベエルゼブブを持っており、悪霊たちの君主によって悪霊病を追い出している」。)

(51)~(57)(67)~(72) の13箇所では *habban* が見られるが、この動詞は (73)(74) でそれぞれ *nearones* (苦しみ)、*untrunnessa & unclæne gastas* (病気や汚れた霊) を目的語としているように、病気や苦痛についても用いられ、よって上記の箇所の *habban* は (1)(5)~(28) の *habere* の持つ「(ある人に病気や苦痛)がある」の意味を反映していると言える。

- (73) *Ongytaþ nu, men <þa> <leofestan>, hwylyce nearonesse þa forworhtan habbað.* (HomU 9 (Verc 4) 57)⁽¹⁸⁾

(さあ、親愛なる者たちよ、罪深き者たちにはいかなる苦しみがあるのかを理解せよ。)

- (74) *Soplice manega he gehælde; Swa þæt hi æthrinon his. & swa fela swa untrumnessa & unclæne gastas hæfdon; þa hi hine gesawon. hi toforan him astrehton. & þus cweðende clypedon. þu eart godes sunu.* (Mk (WSCp) 3.10-11)⁽¹⁹⁾

(まことに彼は多くの人々を癒したので、人々が彼に触れようとした。)

そして病氣や汚れた霊を持っていたことごとく、それらは彼を見ると彼の前に平伏し、こう言って叫んだ、「あなたは神の子だ。」)

また (51)～(60) で悪霊病にかかわる語 (*deofolseocnes*, *deofolseoc*) が用いられていることから、翻訳者により悪霊憑きが病的状態として捉えられているのがわかる。

なお (61)～(65) において *daemonium habere* を訳すのに *wod* が用いられている²⁰⁾ ことの背景に、(19) や (75) におけるように *insanire* (気が狂っている) が悪霊憑きとの関連で現れる事実があると考えられる。²¹⁾

(75) *Isti igitur impuri spiritus, daemones, ut ostensum magis ac philosophis, sub status et imaginibus consecratis delitiscunt et adflatu suo auctoritatem quasi praesentis numinis consequuntur, . . . Hinc sunt et furentes, quos in publicum videtis excurrere, vates et ipsi absque templo, sic insaniant, sic bacchantur, sic rotantur: (MIN. FEL. 27, 1-3)²²⁾*

(よってこれら汚れた霊たち——悪霊たち——は、魔術師たちや哲学者たちに明らかなように、捧げられた彫像や似姿の下に潜み、その息で現実の神のごとき影響力を得る。……またこれに由来するのが、戸外に走り出て来るのが見られるような熱狂した者たちや、さらに神殿から離れた占い師たちであり、彼らはかくも狂い、騒ぎ、くるくる回る。)

VI

(1)(5)～(28) の *habere* を用いた悪霊憑きの表現において、*habere* の主語としては、不特定の人が16回、イエスが7回、洗礼者ヨハネが2回現れる。ここで重要なのは、このうちイエスが主語となる (1)(16)～(19)(22)(28)、洗礼者ヨハネが主語となる (10)(14) すべてが、主語が悪霊憑きの状態を非難されている文脈に見出されるということ、そしてイエスが主語である7箇所中5箇所までがヨハネ福音書に含まれるということである。

イエスが悪霊を持っているというヨハネ福音書で繰り返されるユダヤ人たちの言明が、イエスに対する彼らの非難・言いがかりであることは、(76)～(82) に引用した中世の注釈者たちによるこうした場面の捉え方から明らかである。Augustinus (430没)²³⁾ による (76) では *malum* (悪)、*maledictum* (悪口)

(76) *denique turba turbata uidete quid responderit: Daemonium habes; quis te quaerit occidere? Quasi non peius fuerit dicere: daemonium habes, quam eum occidere. . . . Dominus autem non plane turbatus, sed in sua ueritate tranquillus, non reddidit malum pro malo, nec maledictum pro maledicto. (AVG. in euang. Ioh. 30, 2-3)²⁴⁾*

(ついに混乱した群衆が何と答えたかを見よ、「あなたは悪霊を持っている。誰があなたを殺そうとするのか」。あたかも「あなたは悪霊を持っている」と言うほうが、彼を殺すよりましであるかのように。……しかし主は、全く動じず、自らの真理のうちに平静に、「悪に対して悪を、悪口に対して悪口を返さなかった」〔ペテロの第一の手紙3:9〕。)

(77) では *scelerata res* (罪深いこと)

(77) *Sceleratam rem dixerunt Iudaei Christo: Daemonium habes; (AVG. in psalm. 48 serm. 2, 4)²⁵⁾*

(ユダヤ人たちはキリストに「あなたは悪霊を持っている」と、罪深いことを言った。)

(78) では *verbum asperum* (激烈な言葉)

(78) *Dominus meus audiuit: Daemonium habes. Modo audistis uerbum asperum quod dictum est in Dominum; (AVG. in psalm. 90 serm. 1, 4)²⁶⁾*

(我が主は「あなたは悪霊を持っている」と聞いた。あなたたちは主に対して言われた激烈な言葉を聞いたのである。)

(79) では *contumeliae* (侮辱)

(79) *Non ipse est, qui, cum daemonia eiceret, tales contumelias audiebat, ut diceretur illi: DAEMONIUM HABES? Filio dei, qui daemones eiciebat, Iudaei dicebant: DAEMONIUM HABES. (AVG. serm. 113A, 14)²⁷⁾*

(彼は、悪霊たちを追い出したのに、「あなたは悪霊を持っている」と言われるほど侮辱を聞いた人物ではないか。悪霊たちを追い出した神の子に、ユダヤ人たちは「あなたは悪霊を持っている」と言ったのだ。)

(80) では *opprobria* (侮辱)

(80) *Audi illam et uide quia sic te alloquitur, nisi forte oblitus es quia pro nobis passus est Christus, et antequam pro nobis tanta mala pateretur, audiuit opprobria? Daemonia eiciebat et dicebatur ei: Daemonium habes. (AVG. serm. 163B, 6)²⁸⁾*

(それ〔あなたの信仰〕に耳を傾け、それがそのようにあなたに語り

かけるのを見よ。「キリストは我らのために苦しんだ」[ペテロの第一の手紙2:21] のであり、我らのためにあれほどの災いを被る前、侮辱を聞いたことをよもや忘れていなければ。彼は悪霊たちを追い出したのに、「あなたは悪霊を持っている」と言われたのである。)

そして *Caesarius Arelatensis* (542没) による (81) では *obicere* (非難する)

(81) *Quam non habuit decorem, ut diceretur: NONNE VERUM DICIMUS, QUONIAM DAEMONIUM HABES? In nomine ipsius daemonia fugiebant: et illi obicitur, quia daemonium habebat. (CAES. Arel. serm. 142, 3)²⁹⁾*

(彼は「我々が、あなたは悪霊を持っていると言うのはもっともではないか」と言われるほど見栄えがしなかった。彼の名前によって悪霊たちは去ったが、彼は悪霊を持っていたと非難される。)

さらに *Gregorius Magnus* (教皇590–604) による (82) では *injuria* (侮辱) といった否定的な表現が用いられているのに気付く。³⁰⁾

(82) *Portant illatas contumelias praedicatores sancti, et nullam ad inuicem contumeliam reddunt, sed cum Redemptori nostro diceretur: Daemonium habes, non iniuriam reddidit, sed mansuete respondit, dicens: Ego daemonium non habeo. (GREG. M. in Ezech. 1, 2, 19)³¹⁾*

(聖なる説教者たちは、加えられた侮辱に耐え、侮辱を返さないが、我らの解放者は「あなたは悪霊を持っている」と言われた時、侮辱を返さず、静かに答えて言った、「私は悪霊を持っていない」。)

VII

問題の(2)に現れる *stician on* という古英語表現の基本的意味は(83)~(86)に見られるごとく、ある場所に固着していることを表すのに用いられる。すなわち(83)では外縁(*felg*)と轂(*nafu*)に固定された(車輪の)輻(*spacan*)について

(83) *Swa swa þa spacan sticiað oðer ende on þære felge oþer on þære nafæ, (Bo 39.129.31)³²⁾*

(ちょうど輻が一方の端で外縁に、もう一方の端で轂にはまっているように。)

(84) では(契約の箱に取り付けられた)輪(*hringas*)に通されたままの(アカシア材の)2本の棒(*twegen stengas*)について

- (84) & hat wyrcean twegen stengas of ðæm treowe, ðe is haten sethim, ðæt ne wyrð næfre forrotad; & befoh utan mid golde; & sting ut ðurh ða hringas bi ðære earce sidan, ðæt hie man mæge beran on ðam, & læt hi *stician ðæron*; (CP 22.169.23)³³⁾

(アカシアと呼ばれる、朽ちない木でできた2本の棒を作らせ、金で覆い、箱の横の〔2つずつ固定された〕輪に通し、それらによってそれを運べるようにし、それらをそこに留めておくこと。)

- (85) では体に突き刺さったままの剣 (*sweord*) について

- (85) swa þæt þa hiltan eodon in to þam innoðe, & þæt smeru wand ut, for ðam þe he wæs swiðe fætt. He forlet þa þæt swurd *stician on him* (Judg 3.22)³⁴⁾

(〔剣の〕柄^{つか}まで体内に入り、脂肪がまわりを取り囲んだ。彼が非常に太っていたためである。彼は剣を彼の中に留めておいた。)

- (86) では(葡萄酒の)容器 (*butruc, fæte*) に入り込んでいた1匹の斑^{まだら}の蛇 (*an fah næddre*) について *stician on* は現れている。

- (86) Sum eawfæst man sende ðam halgan were twegen butrucas mid wine to lace. be anum cnapan. . . . Min bearn. beo ðe wærr þæt ðu ne drince of ðam wine þe ðu be wege hyddest. ac ahyld hit wærlice. þonne gesihst ðu hwæt *ðæroninnan sticað*; . . . and ðær gewende ut of ðam fæte an fah næddre; (ÆCHom II, 11 100.274)³⁵⁾

(ある信心深い人がこの聖人に、葡萄酒が入った2つの容器を贈り物として1人の従僕に託して送った。……「我が子よ、よいか、お前が道端に隠した葡萄酒を飲まずに、それを注意深く傾けよ。そうすればお前は、何がその中に潜んでいるかを知る」。……すると1匹の斑の蛇がその中から出てきた。)

さらにこの表現は(87)~(89)では偶像 (*anlicnes, anlicnessa*) に棲み付いた呪われた霊 (*awyrgeð gast*) または悪霊 (*deoflu*) について用いられている。

- (87) ða het se cyning þa anlicnyse towurpan; Hwæt ðæt folc þa cafllice mid rapum hi bewurpon. & mid stengum awegdon: ac hi ne mihton for þam deofle þa anlicnyse styrian; ða het se apostol tolysan þa rapas & cwæð to þam awyrigedan gaste þe hire *on sticode*; . . . (ÆCHom I, 31 444.153)³⁶⁾

(王はその偶像を壊すよう命じた。そこで人々はすぐさま綱をその回りに投げ、棒で動かそうとしたが、悪霊のため偶像を動かすことはで

きなかった。すると使徒は綱を緩めるよう命じ、その中に留まっていた呪われた霊に言った、……)

- (88) *Se ealdorman ða offrode his lac þam hæðenum godum. ac ða deoflu þe on ðam anlicnyssum sticodon. ne mihton nane andsware syllan. swa swa heora gewuna wæs; (ÆCHom II, 38 280.8)³⁷⁾*

(将軍は異教の神々に贈り物を捧げたが、偶像の中に留まっていた悪霊たちは、それらの習慣のように託宣を述べることはできなかった。)

- (89) *We bebeodað þam deoflum þe on ðisum anlicnyssum sticiað þæt hi ut faron. and ða anlicnyssu tocwyson. þæt ge magon swa tocnawan. þæt sunne and mona. ne sind on ðisum anlicnyssum. ac sind mid deoflum afyllede; (ÆCHom II, 38 286.239)³⁸⁾*

(あなたたちが、太陽と月はこれらの偶像の中にはなく、それらは悪霊たちが満ちているとわかるように、我々は、これらの偶像の中に留まる悪霊たちに、外に出て、偶像を破壊するよう命ずる。)

- (1) はイエスが悪霊の支配下にあると非難されている場面であるが、(2) では *stician on* によって、*habere* が表す病的状態を示すのではなく、悪霊の存在が強調されていると言える。

VIII

なお (66) における ‘*deofol is on*’ および (90)~(96) における *habban deofol on* (…の中に悪霊を持つ) も、ヨハネ福音書でイエスが悪霊の影響下にあることを非難されている箇所 *daemonium habere* に由来する、悪霊の存在を明示する表現である。(90)(91) はそれぞれ (16)(17) を訳したもの、(92)(93) は (16) に、(94)(95) は (17) に基づく記述である。

- (90) … *We cweðað rihtlice be ðe. þæt ðu eart samaritanisc. and ðu hæfst deofol on ðe; (ÆCHom II, 13 127.20)*

(……「我々があなたについて、あなたはサマリア人で、あなたの中に悪霊を持っていると言うのはもともとである」。)

- (91) … *Næbbe ic deofol on me. Ac ic arwurðie minne fæder. … (ÆCHom II, 13 128.21)*

(……「私は私の中に悪霊を持っておらず、我が父を敬っている。

- ……」。
- (92) *Ʒa iudeiscan cwædon to criste. Ʒæt he wære Samaritanisc. and hæfde deofol on him; (ÆCHom II, 13 130.95)*
(ユダヤ人たちはキリストに、彼はサマリア人であり、彼の中に悪霊を持っていると言った。)
- (93) *Twa bysmorlice word hi cwædon to criste. An is Ʒæt he wære samaritanisc. oðer Ʒæt he deofol on him hæfde. (ÆCHom II, 13 130.99)*
(2つの侮辱的な言葉を彼らはキリストに言った。一方は彼がサマリア人であるということ、もう一方は彼が彼の中に悪霊を持っているということである。)
- (94) *Ʒa wiðsoc crist swiðe rihtlice. Ʒæt he deofol on him næfde. (ÆCHom II, 13 130.101)*
(するとキリストは、彼の中に悪霊を持っているということを否定したが、それはまことに正しかった。)
- (95) *An ðæra hospworda he forbær suwigende. Ʒæt Ʒæt he be him sylfum oncneow. Ʒæt oðer he soðlice wiðsoc. Ʒæt he deofol on him næfde. (ÆCHom II, 13 131.107)*
(彼らの嘲りの言葉のうち一方——彼自身について彼が知っていたこと——を彼は黙って耐え、もう一方——彼が彼の中に悪霊を持っていたということ——を明確に否定した。)

ヨハネ7:20の *daemonium habere* に相当する古英語訳の *deofol* を主語とする *stician on* は、ヨハネ福音書で繰り返されるイエスが悪霊に取り憑かれているとの非難を鑑み、病的状態ではなく、悪霊の存在を明示するために用いられたと結論できる。

注

- 1) R. Weber et al., *Biblia Sacra iuxta vulgatam versionem*, ed. quinta (Stuttgart, 2007). 古英語のテキストの略記と引用の仕方は、原則として、*DOE (The Dictionary of Old English: A–H on CD-ROM (Toronto, 2017))* に従い、ラテン語のテキストのそれは、原則として、同辞典または *TLL (Thesaurus Linguae Latinae (Leipzig, 1900–))* に従う。古英語および頭に番号を付したラテン語の引用文中のイタリック体(聖書からの引用を示すものは除く)、ギリシャ語の引用文中の下線は、すべて筆者によるものである。なお、原文に付せられ

- た注番号・注文字・注記号は省略した。
- 2) W. W. Skeat, *The Gospel according to Saint Matthew in Anglo-Saxon, Northumbrian, and Old Mercian Versions, Synoptically Arranged, . . .* (Cambridge, 1887); *Saint Mark* (1871); *Saint Luke* (1874); *Saint John* (1878) [Nachdr. Darmstadt, 1970].
 - 3) J. W. Bright, *Euangelium Secundum Iohannem: The Gospel of Saint John in West-Saxon* (Boston and London, 1904), p. 137.
 - 4) ウルガータの語句の検索には *Novae Concordantiae Bibliorum Sacrorum iuxta Vulgatam Versionem Critice Editam, quas digessit B. Fischer, 5 tom.* (Stuttgart-Bad Cannstatt, 1977) を使用した。
 - 5) (5)~(28) は、(21)(24)(25) を除いて、*TLL*, s.v. *habeo* IIA2c の「神々、神、神霊 [を持つ]」(‘*deos, deum, numen*’) において、「悪霊 (たち) [を持つ]」(‘*daemonium(-a)*’) の例として列挙されている (vol. 6, pt. 3, p. 2409, 65–69)。ただしその中で ‘[Ioh.] 8, 41’ とあるのは ‘8, 48’ の誤りである。
 - 6) Nestle-Aland, *Novum Testamentum Graece*, 28. revidierte Aufl. (Stuttgart, 2015)。ギリシャ語のテキストの略記と引用の仕方は、原則として、H. G. Liddell and R. Scott, *A Greek-English Lexicon*, rev. by H. S. Jones, with a revised supplement (Oxford, 1996) または G. W. H. Lampe, *A Patristic Greek Lexicon* (Oxford, 1961) による。
 - 7) *EWNT (Exegetisches Wörterbuch zum Neuen Testament*, hg. v. H. Balz und G. Schneider, 2., verbesserte Aufl., 3 Bde. (Stuttgart, 1992)), Bd. 1, s.v. *δαμόνιον*, S. 656 の以下の記述を参照——『『悪霊に取り憑かれている』は新約に13回、もっぱら四福音書に現れ (……)、悪霊の棲み付き (『取り憑かれた状態』) により説明される病的状態を意味する。ヨハネ10:21からは(イエスについて)『悪霊に取り憑かれている』が『悪霊を持つ』(ヨハネ10:20) と同一であることがわかる』(‘*δαμονίζομαι* begegnet im NT 13mal, ausschließlich in den vier Evv. (. . .), und bezeichnet einen krankhaften Zustand, der durch die Einwohnung eines Dämons erklärt wird („Besessenheit“). Aus Joh 10,21 (von Jesus) geht hervor, daß *δαμονίζεσθαι* identisch ist mit *δαμόνιον ἔχειν* (Joh 10,20)’).
 - 8) C. Tischendorf, *Apocalypses Apocryphae Mosis, . . .* (Lipsiae, 1866), p. 3. (36)~(40) は W. Bauer, *Griechisch-deutsches Wörterbuch zu den Schriften des Neuen Testaments und der frühchristlichen Literatur*, 6. Aufl. hrsg. v. K. Aland u. B. Aland (Berlin, 1988), s.v. *ἔχω* 2 の「持つ、所有する」(‘**haben, innehaben, besitzen**’)、その *e* の「心身のあらゆる状態について」(‘von allen Zuständen d. Leibes u. d. Seele’)、その *α* の「病的状態について」(‘v. krankhaften Zuständen’) に挙げられている例である。
 - 9) *Josephus: The Life against Apion*, with an English trans. by H. St. J. Thackeray,

- LCL (Loeb Classical Library) 186 (Cambridge, MA, 1926), pp. 284–86.
- 10) *Pliny: Natural History, Books 28–32*, with an English trans. by W. H. S. Jones, LCL 418 (Cambridge, MA, 1963), p. 248. (41) は *TLL*, s.v. *habeo* IIA1αγ において「体の欠陥：傷（など）、病氣、苦痛、飢餓、他 [を持つ]」（‘corporis vitia: vulnera (sim.), morbos, dolores, famem, al.’）の例として挙げられている（p. 2403, 26）。
- 11) *Cicero: Letters to Atticus*, vol. 2, ed. and trans. by D. R. S. Bailey, LCL 8 (Cambridge, MA, 1999), p. 170. (42) は *TLL*, s.v. *habeo* IIA1αγ に（p. 2403, 30–31）、また *OLD* (P. G. W. Glare, *Oxford Latin Dictionary*, 2nd ed., 2 vols. (Oxford, 2012)), s.v. *habeo* 16b の「(病的状態) を持つ、…に苦しんでいる」（‘to have, be suffering from (a morbid condition)’）の語義のもとに挙げられている例である。
- 12) *Celsus: On Medicine, Books VII–VIII*, with an English trans. by W. G. Spencer, LCL 336 (Cambridge, MA, 1938), p. 352. (43) は *TLL*, s.v. *habeo* IIA1αγ に挙げられている例である（p. 2403, 35）。
- 13) *Pliny: Natural History, Books XXIV–XXVII*, with an English trans. by W. H. S. Jones, rev., LCL 393 (Cambridge, MA, 1980), p. 428. (44) は *TLL*, s.v. *habeo* IIA1αγ に挙げられている例である（p. 2403, 35–36）。
- 14) *Cicero: Letters to Atticus*, vol. 1, ed. and trans. by D. R. S. Bailey, LCL 7 (Cambridge, MA, 1999), p. 32. (45) は *TLL*, s.v. *habeo* IIA1αγ に挙げられている例である（p. 2403, 37）。
- 15) *Ovid: . . . Ex Ponto*, with an English trans. by A. L. Wheeler, rev. by G. P. Goold, LCL 151, 2nd ed. repr. with corrections (Cambridge, MA, 1996), p. 302. (46) は *OLD*, s.v. *habeo* 16b に挙げられている例である。
- 16) I. Wordsworth, H. I. White, *Nouum Testamentum Domini Nostri Iesu Christi Latine secundum Editionem Sancti Hieronymi*, pars prior (Oxonii, 1889–98), pp. 200–01.
- 17) Bauer, s.v. εἶχω 2.e.α では (36)～(40) 等の例示に続いて「特に、取り憑かれた状態について：δαίμόνιον ἔ. 『悪霊に取り憑かれている』」（‘Besonders von Besessenheit: δαίμόνιον ἔ. von e. Dämon besessen sein’）とあり、また C. L. W. Grimm, *Lexicon Graeco-Latinum in Libros Novi Testamenti*, ed. quarta (Lipsiae, 1903), s.v. εἶχω I2f の「それにより影響を受けたり苦しめられたりする病氣を（ある人が）持つ（と言われる）」（‘dic. aliquis habere mala quibus afficitur vel affligitur’）でも、(38)～(40) その他の例示のあと「以下の表現がここに属する：δαίμόνιον ἔχειν 『悪霊に取り憑かれている』……」（‘Pertinent huc dictiones δαίμόνιον ἔχειν, obsessum esse a daemone, . . .’）と記されている。
- 18) D. G. Scragg, *The Vercelli Homilies and Related Texts*, EETS 300 (Oxford, 1992),

- p. 92. (73) は *DOE*, s.v. *habban* II.L の「経験する、(有利な状態)の恩恵を受ける、(苦難)に耐える」(‘to experience, have the benefit of (an advantage), endure (a hardship)’) の語義のもとに挙げられている例である。
- 19) (74) は T. N. Toller, *An Anglo-Saxon Dictionary: Supplement* (Oxford, 1921), s.v. *habban* VI の「持つ、…に影響を受ける、経験する、楽しむ、苦しむ」(‘to have, be affected with, experience, enjoy or suffer’) の語義のもとに、また J. A. Simpson and E. S. C. Weiner, eds., *The Oxford English Dictionary*, 2nd ed., 20 vols. (Oxford, 1989), s.v. *have*, v. B.I.5 の「(肉体的・精神的な何か)に捉えられる、…に影響を受ける；被る；経験する；楽しむ、苦しむ」(‘To be possessed or affected with (something physical or mental); to be subjected to; to experience; to enjoy or suffer’) の語義のもとに挙げられている例である。なお (74) について R. M. Liuzza, *The Old English Version of the Gospels*, vol. 2, Notes and Glossary, EETS 314 (Oxford, 2000) は、動詞の置き方から翻訳者は ‘*spiritus inmundos*’ (汚れた霊を) という異読に従ったと考え、それが見られる諸写本を挙げる (p. 39)。この異読は (50) にあるとおりである。
- 20) *daemonium habere* の *wod* を用いた意識はさらに、(16) に基づく *ÆCHom* II, 13 130.100 (M. Godden, *Ælfric’s Catholic Homilies: The Second Series, Text*, EETS s.s. 5 (London, 1979)): … *þæt we cweðað on englisc be wodum menn. þu eart wod* (……それは我々が英語で狂人について言うこと、「あなたは気が狂っている」ということである) および (18) を訳した *ÆCHom* II, 13 128.26: … *Nu we tocnawað. þæt ðu eart wod; …* (……「今我々には、あなたが気が狂っている」とわかった。……) にも見出される。
- 21) (19) の原典の (32) において *μαίνεσθαι* (気が狂っている) が *δαμόνιον ἔχειν* との係わりで用いられていることは *EWNT*, Bd. 1, s.v. *δαμόνιον*, S. 655 の以下の記述を参照——「ヨハネ 10:20 は『悪霊を持つ』を『気が狂っている』と説明する」(‘*Joh 10,20* erklärt *δαμόνιον ἔχειν* mit *μαίνεσθαι*’)
- 22) *Tertullian*: … with an English trans. by T. R. Glover, *Minucius Felix*, with an English trans. by G. H. Rendall, LCL 250 (Cambridge, MA, 1931), pp. 396–98. (75) は *TLL*, s.v. *insanio* IA1c の「悪霊に取り憑かれた者たちについて」(‘*de daemoniacis*’) に挙げられている例である (vol. 7, pt.1, p. 1829, 80–81)。
- 23) 本稿における生没年は R. Gryson, *Répertoire Général des Auteurs Ecclésiastiques Latins de l’Antiquité et du Haut Moyen Âge*, 2 vol. (Freiburg im Breisgau, 2007) による。
- 24) R. Willems, *Sancti Aurelii Augustini In Iohannis Euangelium Tractatus CXXIV*, editio altera, CCSL 36 (Turnholti, 1990), pp. 289–90.
- 25) E. Dekkers et I. Fraipont, *Sancti Aurelii Augustini Enarrationes in Psalmos I–L*, CCSL 38 (Turnholti, 1956), p. 568.

- 26) E. Dekkers et I. Fraipont, *Sancti Aurelii Augustini Enarrationes in Psalmos LI–C*, CCSL 39 (Turnholti, 1956), p. 1258.
- 27) G. Morin, *Sancti Augustini Sermones post Maurinos Reperti*, Miscellanea Agostiniana 1 (Roma, 1930), p. 154.
- 28) S. Boodts, *Sancti Aurelii Augustini Sermones in Epistolas Apostolicas*, 2, CCSL 41Bb (Turnhout, 2016), pp. 254–55.
- 29) G. Morin, *Sancti Caesarii Arelatensis Sermones*, pars prima, CCSL 103 (Turnholti, 1953), p. 584.
- 30) ヨハネ福音書の、イエスが悪霊を持っているというユダヤ人たちからの非難については、さらに *Theologisches Wörterbuch zum Neuen Testament*, begr. v. G. Kittel, hrsg. v. G. Friedrich, 11 Bde. (1933–79; Nachdr. Stuttgart, 1990), Bd. 2, s.v. δαίμων, S. 19, 39–20, 2の「ヨハネ福音書においては人々のイエスに対する判断は、7:20; 8:48, 49, 52; 10:20, 21の『彼は悪霊を持っている（そして気が狂っている）』という言葉に言い表されている。もしそこにおそらくまずは一種の罵り言葉があるとしても、その背後には、この非難がユダヤの環境では（ヘレニズム圏ではそれは異なるであろうが）宗教に根ざした極めて激しい拒絶を内包している、ということがある。悪霊を持っている者の言うことを聞いてはならない。それゆえイエスはこの非難に対抗してヨハネ8:49で『私は悪霊を持っておらず、我が父を敬っている』と言う。よって新約の見地からは、『彼は悪霊を持っている』という非難は、『辱め』に満ちた究極の拒絶という性格を得る」（‘In J ist das Urteil des Volkes über Jesus in das Wort gekleidet: δαιμόνιον ἔχει (καὶ μαίνεται), 7, 20; 8, 48. 49. 52; 10, 20. 21. Wenn darin auch wohl zunächst eine Art Schimpfwort vorliegen mag, so steht doch dahinter, daß dieser Vorwurf im jüdischen Milieu (auf hellenistischem Boden wäre das anders!) die schärfste, weil religiös begründete Ablehnung in sich schließt. Wer ein δαιμόνιον hat, den darf man nicht hören. Darum setzt Jesus diesem Vorwurf J 8, 49 entgegen: ἐγὼ δαιμόνιον οὐκ ἔχω, ἀλλὰ τιμῶ τὸν πατέρα μου. Im Licht der nt.lichen Anschauungswelt gewinnt daher der Vorwurf δαιμόνιον ἔχει den Charakter letzter Ablehnung, vollen „Verunehrens“’) を参照。
- 31) M. Adriaen, *Sancti Gregorii Magni Homiliae in Hiezechihelam Prophetam*, CCSL 142 (Turnholti, 1971), p. 29.
- 32) W. J. Sedgefield, *King Alfred's Old English Version of Boethius De Consolatione Philosophiae* (Oxford, 1899). (83)~(85) は BT (J. Bosworth and T. N. Toller, *An Anglo-Saxon Dictionary* (Oxford, 1898)), s.v. stician II.(1)の「くつついている、固定されたままである」（‘To stick, remain fixed’）の語義のもとに挙げられている例である。
- 33) H. Sweet, *King Alfred's West-Saxon Version of Gregory's Pastoral Care*, pt. 1,

- EETS 45 (London, 1871). (84) の *lætan stician ðæron* (そこに留めておく) は、GREG.MAG. Reg.past. 2.11.22 [Ex 25:14–15] (B. Judic et al., *Grégoire le Grand: Règle Pastorale*, t. 1, SChr 381 (Paris, 1992), p. 254): ... *ut portetur in eis qui semper erunt in circulis*, (……それらによって運ばれるようにし、それらは常に輪の中になければならない) の *semper* (常に) 以下に緩く対応する。この箇所が出エジプト記25:14–15からの引用であることについては A. S. Cook, *Biblical Quotations in Old English Prose Writers* (London, 1898; repr. 1971), p. 6 参照。
- 34) S. J. Crawford, *The Old English Version of the Heptateuch*, EETS 160 (1922; repr. London, 1969). (85) の *forlætan stician on* (…に留めておく) は、Idc 3:22: ... *nec eduxit gladium sed ita ut percusserat reliquit in corpore* (……彼は剣を引き抜かず、刺し貫いたまま体内に残った) の *relinquere in corpore* (体内に残る) に緩く対応する。
- 35) (86) は BT, s.v. *stician* II.(4) の「(悪霊憑きについて) …に取り憑かれている、潜む」(‘*to be in possession of (of demoniacal possession), to lurk*’) の語義のもとに挙げられている例である。(86) の *stician ðæroninnan* (その中に潜んでいる) は GREG.MAG. Dial. 2.18.1 (A. de Vogüé, *Grégoire le Grand: Dialogues*, t. 2, SChr 260 (Paris, 1979), p. 194): ... ‘*Vide, fili, de illo flascone, quem abscondisti, iam non bibas, sed inclina illum caute, et inuenis quid intus habet.*’ ... (……「よいか、子よ、お前が隠したあの容器からは飲まずに、それを注意深く傾けよ。そうすればお前は、それが何を中に入れているかを知る」。……) の *intus habere* (…を中を持っている) を意識するのに用いられている。ラテン語原文の対応箇所については M. Godden, *Ælfric’s Catholic Homilies: Introduction, Commentary and Glossary*, EETS s.s. 18 (Oxford, 2000), pp. 438–39 を参照した。
- 36) P. Clemoes, *Ælfric’s Catholic Homilies: The First Series, Text*, EETS s.s. 17 (Oxford, 1997). (87)~(89) は BT, s.v. *stician* II.(4) に挙げられている例である。(87) の *stician on* は Pass.Barth. 1.143.28 (B. Mombritius, *Sanctuarium seu Vitae Sanctorum*, tomus primus (Parisiis, 1910; Nachdr. Hildesheim, 1978)): *Tunc apostolus dixit eis. Soluite omnia uincula eius: Cumque exsoluissent omnia: dixit ad dæmonem qui in eo erat: ...* (……すると使徒は彼らに言った、「その [偶像の] すべての綱を緩めよ」。彼らがすべて緩めると、彼はその中にいた悪霊に言った、……) の ‘*in eo erat*’ (その中にいた) を訳すのに用いられている。ラテン語原文の対応箇所については Godden, *Commentary*, p. 262 を参照した。
- 37) (88) の *stician on* が直接由来する表現は以下のラテン語原文には見られない—— Pass.Sim.Iud. 2.534.22 (B. Mombritius, *Sanctuarium seu Vitae Sanctorum*, tomus secundus (Parisiis, 1910; Nachdr. Hildesheim, 1978)): *in comitatu autem eius erant sacrificatores et Arioli et magi et incantatores: qui per singulas mansiones*

sacrificantes dæmoniis dabant responsa falaciæ suæ. Illō autem die concidentes se et sanguinem suum effundentes nullum penitus potuerunt dare responsum: (彼とともにいたのは犠牲を捧げる者たち、占い師たち、魔術師たちや呪いをかける者たちで、彼らはそれぞれの住処において悪霊たちに犠牲を捧げ、彼らの偽りの託宣を述べていた。しかしその日、彼らは自らを打ち、自らの血を流しても、中から託宣を述べることはできなかった)。ただし per singulas mansiones (それぞれの住処において) と penitus (中から) といった表現は悪霊たちの空間的存在を示唆している。ラテン語原文の対応箇所については Godden, *Commentary*, p. 614 を参照した。

- 38) (89) の stician on は Pass.Sim.Iud. 2.539.31: Vt sciatis autem: quia simulachra eorum non sole sed dæmoniis plena sunt: iubemus nunc huic dæmonio quod in simulacris solis et lunæ uos ludificat: (あなたたちが、それらの偶像は、太陽ではなく悪霊たちで満ちているとわかるように、我々は、太陽と月の偶像の中で我々を嘲るこの悪霊に、今命ずる) の in ... ludificare (…の中で嘲る) に緩く対応している。ラテン語原文の対応箇所については Godden, *Commentary*, p. 621 を参照した。

On the Old English Equivalent of *daemonium habere* in Io 7:20

Satoru ISHIHARA

The *daemonium habere* ‘have a devil’ in *respondit turba et dixit daemonium habes* (Io 7:20) ‘the multitude answered, and said, Thou hast a devil’ is rendered freely by *stician on* ‘stick in’ with *deofol* ‘devil’ as its subject in the Old English version: . . . *deofol þe sticað on* (Jn (WSCp) 7.20) ‘. . . A devil sticketh in thee’.

In the Vulgate Gospels *daemonium(-a) habere* ‘have a devil (devils)’ occurs 18 times, *spiritum immundum (mutum, infirmitatis) habere* ‘have an unclean spirit (a dumb spirit, a spirit of infirmity)’ 4 times, and *Beelzebub habere* ‘have Beelzebub’ once. Latin *habere* can be used of having a morbid condition, e.g. *febriculam tum te habentem scripsisse* (CIC. Att. 6, 9, 1) ‘[your remark] that you wrote having a slight fever then’, which is cited in the *Oxford Latin Dictionary*, s.v. *habeo* 16b to have, be suffering from (a morbid condition). *Habere* governs both the *plagas* ‘maladies’ and the *spiritus immundos* ‘unclean spirits’ in *multos enim sanabat. ita ut intruerent in eum. ut illum tangerent. et quodquod habebant plagas. et spiritus immundos.* (VET. LAT. Marc. 3, 10–11 (cod. 10)) ‘for he healed many, so that they pressed upon him for to touch him, and as many as had maladies and unclean spirits’, which shows that *habere* in the expressions *daemonium* (etc.) *habere* is used of having a morbid condition. What should be noted is that in 7 out of the 23 instances of those expressions Jesus is accused of having a demoniacal possession and that 5 out of the 7 instances occur in Io. And *stician on* can be used of a devil staying in a place, e.g. *ða het se apostol tolysan þa rapas & cwæð to þam awyrigedan gaste þe hire on sticode* (ÆCHom I, 31 444.153) ‘then the apostle ordered the ropes to be loosed, and said to the accursed spirit that stucked in it [the image]’.

Thus we can conclude that the *deofol* and *stician on* in Jn (WSCp) 7.20 is used, in consideration of Jesus being accused of having a devil, to emphasise the existence of a devil in him rather than describe a morbid condition caused by a devil.